



《演奏者よりメッセージ／プログラムノート》

2020年は世界中の人々にとって新しい困難や挑戦にあふれた年でした。学内の礼拝やその他の音楽行事に関わることができなかったのは、立教女学院のオルガニストとして、非常に残念でなりません。そのため、クリスマス・新年・顕現節を祝うこのプログラムで2021年のスタートを迎えることは大きな喜びです。

皆さんがご存じのように、立教女学院には全国でも屈指の素晴らしいオルガンがあります。この素晴らしい楽器を日々弾けることは大きな喜びです。アメリカのTaylor & Boody社によって1998年に作られたこのオルガンは、17世紀から18世紀北ドイツのオルガン様式を模しています。このコンサートでは、オルガンの音色が最も美しく響く、その時代のドイツ音楽を曲目として選びました。

4つの曲は讃美歌をベースに作曲されたコラール前奏曲です。「古き年は過ぎ去りぬ」「甘き喜びのうちに」はそれぞれの讃美歌の一節を装飾的に編曲した曲です。「天のかなたから」「暁の星はいと麗しきかな」は複数の節で構成されていて、この時代の代表的なオルガンの、様々な音色を際立たせるように作られています。立教女学院高等学校聖歌隊の皆さんに、讃美歌「天のかなたから」の一節を歌っていただいたことを感謝します。

前奏曲とフーガハ長調とカンツォーナは特に宗教音楽ではありませんが、一年のこの時期の祝福の雰囲気、とてもよく表現していると私は思っています。

オルガンコンサート「新年を迎えて」をお聴きいただき、御礼申し上げます。2021年が皆さんにとって幸多き年であるように、心より願っております。

2021年1月

立教女学院 学院オルガニスト
ジェームス・ドーソン

